

## 【「ヒダサンショウウオ」の成体が確認されました】

京都府のレッドデータブックで準絶滅危惧種に指定されている「ヒダサンショウウオ」の成体が、土ヶ畑の大路次川源流で初めて確認されました。

「ヒダサンショウウオ」は、本州中部以西に生息する希少生物で、2012年に、土ヶ畑で幼生が初確認されていました。

以来、地域住民が「ヒダサンショウウオの里」と打ち出して河川環境の美化改善等の環境保全活動を行い、畑野小学校も「ヒダサンショウウオ」を図案化したキャラクター「はたのちゃん」を発案、小学校のマスコットとして親しんでいます。

発見された個体は、体長 11 センチの雄。 黒っぽい背中側には金色の小さな斑点が、白っぽい腹側には銀色の斑点が浮かんでおり、生息地によって斑点の模様が異なり「金銀に別れているのは亀岡の個体の特徴」と言われている。

2 月下旬から繁殖期に入るため、陸上から水源に集まってきた個体とみられている。

(2月18日付け、京都新聞記事から)



(発見されたヒダサンショウウオの成体)



(マスコットキャラクター『はたのちゃん』)

### 【ヒダサンショウウオ】

〔形態〕 全長はオス 118mm、メス 129mm 程度。背面は紫褐色で黄点の散在する個体が多い。幼生は黒褐色の斑紋と、指端に黒い爪をもつ個体が多い。卵嚢はバナナ形で水中では虹色光沢がある。

◎近似種との区別 成体は背面が紫褐色で黄点が散在すること、幼生は流水中に生息し、尾のひれの前端が背面中央部に位置し、顕著な黒斑が散在することで、ほかのサンショウウオ類と区別できる。

# ヒダサンショウウオ成体、京都府内で初確認 府の準絶滅危惧種「豊かな自然環境の象徴」



発見されたヒダサンショウウオの成体（京都府亀岡市）

京都府レッドデータブックで準絶滅危惧種に指定されているヒダサンショウウオの成体を、NPO 法人「亀岡人と自然のネットワーク」が、亀岡市畑野町で確認した。同ネットワークはこれまで同町で幼生や幼体を確認してきたが、親の成体を見つけたのは初めてといい、「亀岡の豊かな自然環境の象徴。地域の誇りとして子どもたちに伝えていきたい」としている。

[【動画】確認されたヒダサンショウウオの成体](#) ヒダサンショウウオは本州中部以西に分布し、府内では丹後～山城（山城は局地的）地域に生息する。同ネットワークは 2012 年に畑野町で幼生を初確認。以来、住民が地元を「ヒダサンショウウオの里」と打ち出し、畑野小ではヒダサンショウウオのキャラクター「はたのちゃん」も制作。地域のシンボルとして子どもたちにも身近な存在となっている。ただ、成体は未確認だったため、市内で両生類を調べている大学事務職員の宇野洋平さん（31）＝曾我部町＝が川石の下や川沿いの倒木の下などに生息していないか、地道な調査を開始。3 年がかりで 2019 年秋、川の源流域で成体を見つけていた。同ネットワークとしても今月 11 日に宇野さんと調査を行い、岩の下にいた成体を初めて発見した。発見した個体は体長約 11 センチの雄。黒っぽい背中側には金色の小さな斑点が、白っぽい腹側には銀色の斑点が浮かんでいた。ヒダサンショウウオは生息地によって腹側も金色の斑点だったり、斑点が少なかったりと異なり「金銀に分かれているのは亀岡の個体の特徴」（宇野さん）という。2 月下旬から繁殖期に入るため、陸上から水源に集まってきた個体とみられる。同ネットワークは「ヒダサンショウウオを守る気持ちから、自発的に環境保全への思いを抱くよう、子どもたちに紹介していきたい」としている。